



学校だより

調布市立調和小学校
令和7年10月31日(金)
校長 安藤 力也

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

「基礎・基本」を積み重ねることの尊さ

副校長 佐久間 信介

話題となった映画『国宝』に描かれる歌舞伎の世界には、「守・破・離」という言葉があるそうです。まずは師から受け継いだ型を忠実に守り(守),その上で自分なりの工夫を加えて型を破り(破),最終的に自らの新しい境地を切り拓いていく(離)。華やかに見える舞台の裏側では、基本の型を何度も繰り返し、声や所作を磨き続け、地道な稽古を積み重ねる日々があります。その一つ一つは目立たず、時に単調にさえ見えるかもしれませんが、その積み重ねこそが、やがて人々の心を打つ舞台を生み出していくそうです。



この「守・破・離」の道筋は、子どもたちの学びや成長にも通じるものがあります。学校生活の中には、朝「おはよう」と挨拶をすること、給食の前に「いただきます」と感謝を述べる、友達に「ありがとう」や「ごめんね」と気持ちを伝えることなど、多くの「基礎・基本」があります。これらは特別なことではなく、毎日の生活の中で自然に行われていることです。こうした「当たり前」の積み重ねが、安心できる学校生活を支え、人と温かくつながる力を育てます。その上に、自分なりの工夫や新たな挑戦が広がっていきます。

学習の場面でも同じです。授業の前に準備をすること、授業中に先生の話をよく聞くこと、ノートを丁寧に書くこと、自分の考えを言葉にして伝えることなど、いずれも特別なことではない「基礎・基本」です。こうした日々の積み重ねが学ぶ力と楽しさへとつながり、さらなる新しいことへの学びに向かっていきます。

一方で、現代社会には、より手早く、より手軽に早く結果や成果を求める「コスパ」や「タイパ」といった効率を重視する考え方が広がっています。もちろん効率も大切ですが、子どもたちの成長や教育においては、それが本当に子どもたちのためになっているのかを考えさせられることがあります。

子どもたちの成長の歩みは一人一人異なりますが、共通して言えるのは、手間や時間を惜しまず積み重ねた経験こそが、その子の未来を支えるということです。歌舞伎役者が長い年月をかけて芸を磨き、「国宝」と呼ばれる存在に至るように、子どもたちにも自らの「守・破・離」の道を歩みながら、よりよい生き方を築いてほしいと願っています。

御家庭でも、「おはよう」「ありがとう」といった挨拶をより意識してお子さんと交わしていただくと、学校での学びと響き合い、子どもたちの成長を一層確かなものにしていただけます。「今日は『ありがとう』を言えたかな?」と前向きに声を掛けていただくだけでも、子どもは自分の一日を振り返るきっかけとなります。これからも保護者の皆様と力を合わせ、子どもたち一人一人が温かい歩みを続け、自分自身の中にある「宝」を見いだせるように支えてまいります。



本校の正門前道路は、土・日、休日を除いた7時30分から8時30分までは「歩行者専用道路」となっており、自転車以外の車両は通行禁止です。お子さんを車で送る姿を見かけることがありますが、子どもたちの安全のためにも、道路交通法に準じていただければと存じます。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。